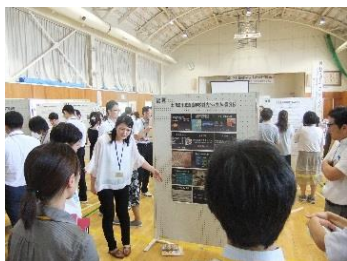


7月31日（水）、北海道特別支援教育研究協議会道南大会が七飯養護学校にて行われました。当日は、総括事務局の札幌稲穂高等支援学校から3名の事務局員の他、道南の養護学校・特別支援学校・小中学校・高等学校から186名の参加がありました。

開会式のあと、小学部・中学部・高等部・寄宿舍に分かれて部会が行われました。各部会にて1本ずつ事例発表と質疑応答が行われた後、5、6名の小グループに分かれて、協議会を行いました。「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つのキーワードに沿って、授業での取り組みを発表したり、キーワードにかかわる目標の立て方や授業の展開の仕方の難しさを話し合ったりしました。日頃の実践を交流し合える貴重な時間を持つことができました。



午後のポスター発表では、七飯養護学校から各教科や領域の授業をまとめたポスターと今年度の研究の概要の発表、さらに午前中の部会で事例発表の担当でなかった道南地区の各学校からもポスターを用意していただき、合計21本の発表がありました。自由に各コーナーを回ってもらい、参加したみなさんで活発な交流を行うことができました。

最後の講演会では、山形大学大学院教授の三浦光哉先生から「特別支援教育のアクティブラーニング」～『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善～という演題でお話をいただきました。新学習指導要領の内容を示しながら、カリキュラム・マネジメントの重要性・「P→D→C→A」サイクルの機能化についてのお話がありました。単元目標の書き方では、



「知識・技能」「思考・判断・表現」「学びに向かう力・人間性等の涵養」の全ての視点で目標を盛り込むこと、単元の計画では失敗することも想定しながら、長いスパンで設定して、「学び」が将来につながるようにすることの大切さなど、貴重なお話がありました。

とても暑かった一日でしたが、参加した皆さんの2学期からの実践につながっていけばと思います。

（文責：道南地区事務局・七飯養護学校教諭 印牧幸生）